

令和2年度の主な水害とその対応について

令和3年7月13日

水管理・国土保全局 河川計画課

- 1. 令和3年7月豪雨による被害について**
- 2. 令和3年度予算について**
- 3. 気候変動や社会状況の変化を踏まえた今後の災害対策**
- 4. 事前防災対策の効果**
- 5. 令和2年7月豪雨による被害および復旧状況**

1. 令和3年7月豪雨による被害について

静岡県熱海市伊豆山で発生した土石流災害

あいぞめがわ

- 梅雨前線による大雨に伴い、令和3年7月3日10時30分頃に静岡県熱海市伊豆山の逢初川で土石流が発生。
- 逢初川の上流部 標高約390m地点で発生した崩壊が土石流化し、下流で甚大な被害が発生。
- 熱海雨量観測所における降り始めからの総雨量は400mm以上。7月2日12:30に土砂災害警戒情報発表。

【位置図】

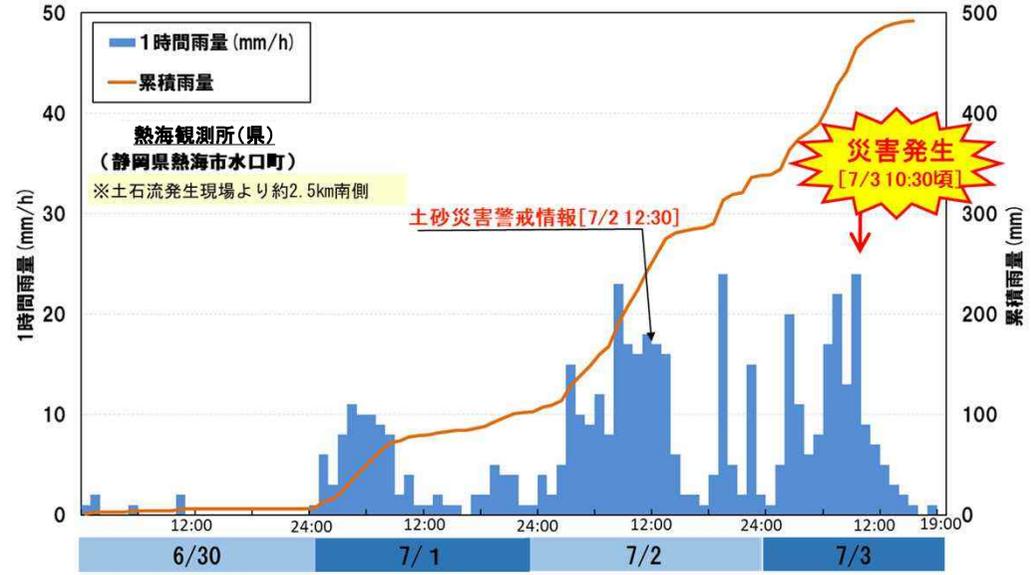


【土石流による被害状況等】



【土石流発生前後の降雨量】

※発災時刻は報道情報による



静岡県熱海市伊豆山 逢初川で発生した土石流災害に対する対応状況

- 土砂災害専門家が現地調査。斜面監視装置の設置や、搜索作業中止判断基準の提案等、技術的助言を実施。(7月4日～)
- TEC-FORCEによる監視カメラ4基の設置完了。静岡県や熱海市等の関係機関とカメラ画像を共有。(7月5日～)
- 土砂災害専門家の助言を受け、静岡県が崩壊地上部に斜面の変動状況を計測するための伸縮計を設置。(7月7日)
- 静岡県が「逢初川土石流災害対策検討委員会」を立ち上げ。県からの要請により、国土技術政策総合研究所土砂災害研究部 砂防研究室長と中部地方整備局総合土砂管理官が委員会に参画。(7月7日)
- 斜面の監視観測結果等とエリアメール(市内全域)やサイレン、回転灯を組み合わせた監視警戒体制を構築。(7月9日)

【監視警戒体制】

監視カメラで土石流の発生の恐れがある場合や地盤伸縮計で基準値以上の変状の進行が確認された際にはエリアメールやサイレン、回転灯で危険性を周知。

伸縮計設置位置



伸縮計設置状況



背景の航空写真は、2021年7月6日撮影(国土地理院)

凡例 ○:監視カメラ
●:伸縮計
---:逢初川の被災前の流路(推定)

逢初川

カメラ映像の配信状況

照明車により夜間も監視可能

国道135号

東海道新幹線

JR東海道線

サイレン等の設置状況

令和3年7月1日からの大雨による河川氾濫等について(静岡県、神奈川県)

○ 国管理河川

・狩野川水系黄瀬川^{きせ}で黄瀬川大橋(県道)が沈下。

○ 都道府県管理河川(4水系7河川)

・静岡県 狩野川水系黄瀬川で家屋1戸が流失、富士川水系江尾江川^{えのおえ}等で氾濫。

・神奈川県 金目川水系河内川^{かなめ こうち}等で氾濫。

確認された主な浸水被害

河川名	市町村名	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
富士川水系江尾江川	富士市	22	61
富士川水系高橋川、沼川	沼津市	88	248



※これは速報であり、今後変更になる可能性があります。

令和3年7月1日からの大雨による河川氾濫について(鳥取県、島根県、広島県)

- 7月7日未明からの大雨を中心に、^{ひい}斐伊川水系^{いう}意宇川をはじめ鳥取、島根両県であわせて9水系23河川で氾濫。
- 7月8日明け方からの大雨で、東広島市を流れる黒瀬川水系黒瀬川で氾濫、^{みつおおかわ}三津大川水系三津大川では氾濫したほか河岸、道路を侵食。
このほか広島県三原市を流れる^{めた}沼田川水系^{てんじょう}天井川、^{にゅうの}入野川で堤防が決壊し、田畑等が浸水。
- また、7月12日の大雨では、島根県雲南市を流れる^{みたに}斐伊川水系三谷川で氾濫を確認。その他河川も含めて詳細確認中。

鳥取県、島根県、広島県が管理する15水系31河川で氾濫



黒瀬川水系黒瀬川周辺の浸水 (7/7広島県東広島市)

【速報】斐伊川水系三谷川

※12日の大雨で新たに氾濫



千代川水系清水川 (7/7鳥取県鳥取市) (国土交通省の排水ポンプ車による排水)



沼田川水系天井川の堤防決壊 (7/8広島県三原市)



三津大川水系三津大川の河岸侵食 (7/8広島県東広島市)

※これは速報であり、今後変更になる可能性があります。

- 川内川流域では、7月10日11時までの12時間で、河川整備の目標とする1/100の雨量※に匹敵する283mmの大雨となった。※おおよそ100年に1回起こる規模の雨量
- 国が管理する区間では氾濫していないが、鹿児島県管理の川内川支川春田川（薩摩川内市）、白木川（伊佐市）及び米之津川水系米之津川（出水市）で無堤部から溢水し氾濫。
- 国が管理する川内川本川の栗野橋観測所や、支川羽月川の花北観測所では、氾濫危険水位を超過し、警戒レベル4相当の氾濫危険情報を発表。鶴田ダムの緊急放流の可能性などを伝えることにより警戒を促した。
- 鹿児島県、熊本県で合計8件の土砂災害が発生。家屋一部損壊の被害が生じたが、人的被害はなし。

■米之津川水系米之津川(鹿児島県管理)
無堤部溢水により4戸の床下浸水。
浸水面積約0.2ha。

■白木川(鹿児島県管理)
無堤部溢水により4戸の床下浸水。
浸水面積約4ha。

■春田川(鹿児島県管理)
溢水と内水により浸水。



J R 薩摩川内駅付近 (薩摩川内市)
※薩摩川内市提供



※これは速報であり、
今後変更になる可能性があります。



【土石流等】鹿児島県薩摩郡さつま町求名

■羽月川(国管理)
堤防法面が損壊。11日朝までに応急対策を完了。
内水により田畑、ビニールハウスが浸水。



羽月川右岸1k付近(伊佐市)
※九州地方整備局がドローンで撮影

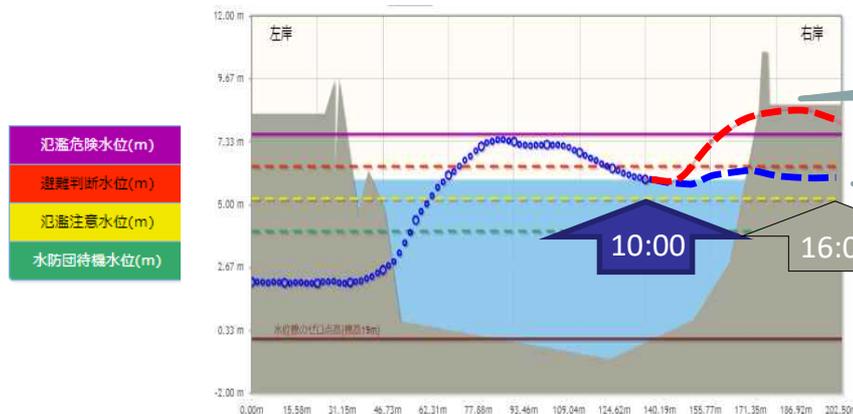
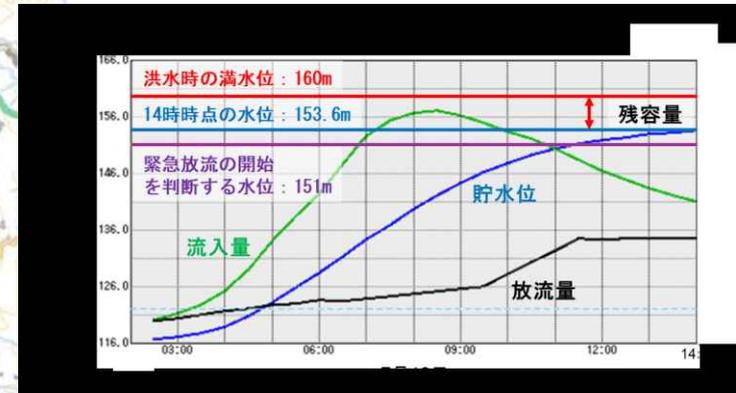


対策後の堤防の様子

せんだい 川内川の水位や水位予測の経過(令和3年7月10日)



鶴田ダムの貯水量等



【予測】鶴田ダムの緊急放流により氾濫の可能性のある水位を予測

※赤点線:7月10日10:00時点の予測水位

【実績】ダム機能を最大限発揮することで下流の氾濫を阻止

※青点線:実際に観測された水位

7月10日の宮之城水位観測所の予測と実績

※これは速報であり、今後変更になる可能性があります。

令和3年7月1日からの大雨による被害状況等について

1 気象状況 (7/12 14:00 時点)

- 梅雨前線は日本海から日本の東へのびており、次第に弱まる見込み。一方、日本の上空に寒気が流れ込んでいるため、16日頃にかけて全国の広い範囲で大気の状態が非常に不安定な状況が続く見込み。
- 西日本から東日本を中心に12日は大気の状態が非常に不安定となり、局地的に雷雲が発達している。落雷や竜巻などの激しい突風、局地的な非常に激しい雨に注意。大気の不安定な状況は16日頃にかけて続く見込み。
- 静岡県伊豆は、12日は雲が広がりやすく、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨の降る所がある。13日はくもり夕方から雨で、所により昼過ぎから夜のはじめ頃雷を伴い激しく降る見込み。

2 体制等

- 非常体制：本省、中部地整、国総研、国土地理院、気象庁
- 警戒体制：中部運輸、中国地整、中国運輸、九州地整
- 注意体制：東北地整、東北運輸、関東地整、関東運輸、北陸信越運輸、近畿地整、近畿運輸、神戸運輸監理部、九州運輸、沖縄総合事務局

3 被害情報等

(1) 砂防

○土砂災害 (7/12 15:15 時点)

- ・162件 (神奈川県71、鳥取県27、千葉県21、静岡県12、鹿児島県8、島根県6、広島県5、長野県4、愛知県3、富山県1、滋賀県1、大阪府1、和歌山県1、熊本県1)
- 人的被害 負傷者 (鳥取県3、神奈川県1)
- 人家被害 全壊 (神奈川県1)
- 人家被害 一部損壊 (鳥取県4、鹿児島県4、千葉県2、神奈川県2、広島県2、滋賀県1)

※「人的被害」「人家被害」には、静岡県熱海市伊豆山逢初川の土石流による被害は現在確認中のため含んでいない。

○土砂災害警戒情報（7/12 15:00 時点）

32府県 238市町村に発表

（岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県）

※8県 24市町村で継続中

（岩手県、宮城県、秋田県、福島県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県）

○熱海市土石流災害

<被災概要等>

- ・発生日時：7月3日（土）10：30頃
- ・発生場所：静岡県熱海市伊豆山・逢初川（あいぞめがわ）
- ・災害形態：土石流
- ・発生要因：降雨
- ・法指定等：土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域
- ・警報等：大雨警報（土砂）7/2 6:29
高齢者等避難（レベル3）7/2 10:00
土砂災害警戒情報 7/2 12:30
緊急安全確保（レベル5）7/3 11:05
- ・既往施設：砂防堰堤1基
- ・被害状況：人家流出
- ・人的被害：有（人数等確認中）
- ・国道135号が土砂流出による通行止め（7/3 12:00～）

<国土交通省の対応>

TEC-FORCE 全体で40人（のべ569人・日）を派遣。

<熱海市土石流災害への派遣>

○本日、37人（のべ407人・日）を派遣。

- ・リエゾン 10人（熱海市7、静岡県3）
※熱海土木で活動する総括班を含む
- ・JETT 2人（熱海市）
- ・ドローン班、砂防班等 25人

（ドローン班7、被災状況調査班（砂防8、道路6）、応急対策班等4）

○静岡県から要請を受け、土砂災害専門家2名が現地調査を実施。（7/4, 5）
熱海市長、静岡県等へ斜面の崩壊の危険性や雨天時に捜索活動を中止する際の判断基準などを助言。（7/4）

○監視体制強化のため、崩落個所と推定される溪流の最上流部など4カ所

に監視カメラなどを設置、関係機関へライブ映像を配信中。(7/4～)

- 土砂災害専門家の助言を受け、崩壊地の上部に斜面の変動状況を計測する伸縮計を県が設置(7/7)
- 監視カメラで土石流の発生の恐れがある場合や地盤伸縮計で基準値以上の変状の進行が確認された際にはエリアメールやサイレン、回転灯で危険性を周知(7/9～)
- 海上保安庁は民間救助団体(水難救済会所属艇)とも協力し、熱海港(伊豆山地区)で行方不明者の救助活動を実施し、2名を発見。(7/3)
- 静岡県建設業協会との災害協定に基づき土砂撤去支援体制構築済み。

(2) 河川 (7/12 15:00 時点)

2 3 水系 4 2 河川で氾濫や河岸侵食等による被害。

○神奈川県、静岡県等

国・県あわせて5水系8河川で氾濫。狩野川水系黄瀬川では県道橋の沈下や河岸侵食による家屋流失が発生。

○鳥取県、島根県、広島県

斐伊川水系意宇川(松江市)など鳥取、島根、広島各県が管理する15水系30河川で氾濫。

12日からの大雨により斐伊川水系三谷川(雲南市)で氾濫。その他河川含めて詳細確認中。

○鹿児島県

鹿児島県が管理する川内川水系春田川など2水系3河川で氾濫。

(3) ダム (7/12 13:30 時点)

○洪水調節を実施したダム 73ダム

うち事前放流を実施したダム 9ダム

うち事前放流を実施していないダム 64ダム

(4) 道路 (7/12 14:30 時点)

○高速道路 4路線 11区間

被災による通行止め:

E16 横浜横須賀道路 逗子 IC (逗子 IC ランプ部で土砂崩落)

E7 日本海東北道 本庄 IC~大内 JCT (土砂崩落)

E54 松江道 高野 IC~雲南吉田 IC (土砂崩落)

雨量基準超過による通行止め:

E2A 中国自動車道 東城 IC~庄原 IC

E7 日本海東北道 岩城 IC~仁賀保 IC (被災区間を含む)

E54 松江道 三次東 JCT~三刀屋木次 IC (被災区間を含む)

○有料道路

被災による通行止め：なし
雨量基準超過による通行止め：なし

○直轄国道 2路線4区間

国道19号（長野県長野市）：トンネル坑口隣接地の地滑りにより、危険回避のため通行止め

国道54号（広島県三次市）法面崩落による通行止め

国道54号（島根県雲南市）冠水による通行止め（2区間）

○補助国道 13路線16区間

国道135号（静岡県）：土砂流入による通行止め

国道179号（鳥取県）：法面崩落による通行止め

国道184号（島根県）：土砂崩落による通行止め

国道184号（島根県）：法面崩落による通行止め

国道267号（鹿児島県）：法面崩落による通行止め

国道313号（鳥取県）：法面崩落による通行止め

国道314号（島根県）：土砂流出による通行止め

国道375号（島根県）：路面冠水による通行止め

国道429号（岡山県）：土砂崩れによる通行止め

国道431号（島根県）：路面冠水による通行止め（3区間）

国道432号（島根県）：電柱倒壊による通行止め

国道447号（鹿児島県）：法面崩落による通行止め

国道473号（愛知県）：路肩崩落による通行止め

国道488号（広島県）：道路崩壊による通行止め

○都道府県道等：被害18県 70区間（うち、孤立1区間）

栃木県2区間（倒木2）

群馬県1区間（土砂崩れ1）

静岡県4区間（土砂崩れ2、橋梁被災1、橋梁流失1）

長野県1区間（路肩崩落1）

岐阜県1区間（落石1）

富山県2区間（落石2）

愛知県2区間（路肩崩落1、土砂崩れ1）

三重県1区間（土砂崩れ1）

福井県1区間（土砂流出1）

和歌山県1区間（土砂流出1）

鳥取県4区間（土砂崩れ1、土砂流出1、路面陥没2）

島根県31区間（土砂崩れ8、法面崩落10、路面冠水11、倒木2）

岡山県1区間（土砂崩れ1）

広島県9区間（土砂崩れ3、法面崩落1、道路損壊3※1、路肩崩壊2）

- ※ 1 広島県竹原市宿根地区で孤立発生（22世帯50人、物資運搬可能）
 山口県3区間（路肩崩壊2、倒木1）
 高知県1区間（路面陥没1）
 熊本県1区間（倒木1）
 鹿児島県4区間（法面崩落1、道路損壊2、路肩崩壊1）

(5) 鉄道（7/12 14:30 時点）

○施設被害

- ・ JR西日本 ^{くれ}呉線 ^{あきながはま}安芸長浜駅～^{おおのり}大乘駅間でトンネル上部の河川護岸崩壊
- ^{あきさいざき}安芸幸崎駅～^{ただのうみ}忠海駅間で線路上部法面崩壊
- ^{よなご}山陰線 ^{やすぎ}米子駅～安来駅間 線路冠水
- ・ ^{こみなと}小湊鉄道 ^{こみなと}小湊鉄道線 ^{うまたて}馬立駅～^{かずさうしく}上総牛久駅間で路盤流出
- ^{うまたて}上総大久保駅～^{かすさうしく}養老溪谷駅間で路盤流出

○運転を見合せている路線 6事業者 15路線

< JR西日本 >

- ・ ^{くれ}呉線 ^{みはら}三原駅～^{たけはら}竹原駅間（安全確認、雨量規制のため）
- ・ ^{ほうきだいせん}山陰線 ^{ほうきだいせん}伯耆大山駅～^{ほうきだいせん}浜田駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{よなご}境線 ^{よなご}米子駅～^{さかいみなど}境港駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{はくび}伯備線 ^{にいざと}新郷駅～^{ほうきだいせん}伯耆大山駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{げいび}芸備線 ^{にいみ}新見駅～^{みよし}三次駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{きすき}木次線 ^{しんじ}宍道駅～^{しんじ}出雲横田駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{つげ}関西線 ^{つげ}亀山駅～^{つげ}柘植駅間（雨量規制のため）

< JR東日本 >

- ・ ^{うえつ}羽越線 ^{さかた}酒田駅～^{さかた}秋田駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{ただみ}只見線 ^{おおしらかわ}大白川駅～^{おおしらかわ}只見駅間（雨量規制のため）
- ^{ただみ}会津川口駅～^{ただみ}会津若松駅間（雨量規制のため）

< JR東海 >

- ・ ^{たき}紀勢線 ^{たき}亀山駅～^{たき}津駅間（雨量規制のため）
- ^{たき}多気駅～^{みせだに}三瀬谷駅間（雨量規制のため）
- ・ ^{めいしょう}名松線 ^{いえき}家城駅～^{いせおきつ}伊勢奥津駅間（雨量規制のため）

< JR九州 >

- ・ 豊肥線 立野駅～内牧駅間（雨量規制のため）

< 小湊鉄道 >

- ・ 小湊鉄道線 光風台駅～上総牛久駅間（路盤流出のため）
里見駅～上総中野駅間（路盤流出のため）

< 一畑電車 >

- ・ 北松江線 電鉄出雲市駅～松江しんじ湖温泉駅間（雨量規制のため）
- ・ 大社線 川跡駅～出雲大社前駅間（雨量規制のため）

(6) 航空（7/12 14:30 時点）

- ・ 空港施設等に被害なし。各空港通常通り運用中。
- ・ 運航への影響
 - 7月1日～9日 欠航129便（ANA36便、JAL7便、その他86便）
 - 7月10日 欠航便なし
 - 7月11日 欠航便2便（JAL2便）
 - 7月12日 欠航便11便（JAL6便、その他5便）

(7) 自動車（7/12 14:30 時点）

- ・ 高速バス
 - 3社2路線〈共同運行あり〉において運休
 - 1社1路線 において一部運休
- ・ 路線バス
 - 9社19路線において運休
 - 9社16路線において一部運休中
- ・ 自動車道
 - 2事業者2路線で全線通行止め（土砂崩れ、崩落）
- ・ 宅配事業者
 - 大手3社において一部地域で集配遅延等
- ・ 自動車検査証の有効期間の伸長（7/5 中部運輸局プレス）
対象地域：静岡県熱海市伊豆山
伸長期間：自動車検査証の有効期間が7/3～8/1の車両について、
8/2まで伸長
- ・ 自動車の抹消登録の特例（7/9 本省自動車局プレス）
土砂に埋まる等により自動車の「罹災証明書」が交付されない場合に、
申立書によって代えることを可とする等の特例を措置

(8) 海事 (7/12 14:30 時点)

- ・ 運休なし

(9) 港湾 (7/12 5:30 時点)

○ 熱海港 (地方港湾)

- ・ 被害情報：土砂流入
- ・ 離島航路 (初島・大島) は運行中 (今後も通常運行)
- ・ 対応状況等

基幹的防災拠点の災害対策用資機材の搬送体制確保。

○ 有明海・八代海

海洋環境整備船「海煌 (かいこう)」が 11 日 八代海で流木を約 30m³ 回収。12 日も引き続き漂流物回収を実施。

(10) 観光 (7/12 14:30 時点)

○ 宿泊施設等の被害状況 (確認できたもののみ)

- ・ 熱海伊豆山周辺の旅館・ホテル等のうち、建物全壊 1 件 (簡易宿所)、施設の一部損壊 5 件を確認
- ・ 鳥取県東伯郡の旅館・ホテル等のうち、一部浸水被害 4 件を確認

○ ホテル・旅館における被災者支援の状況

- ・ 7/9 時点で、熱海のニューフジヤホテル及びホテルニューアカオで避難者 572 人を受入れている。

(11) 下水道

管路施設

- ・ 水道の復旧した一部の地区で、熱海市がバキューム車等により汚水移送を実施

(12) 都市

- ・ 9 公園で被害あり。(神奈川 5、静岡 2、鳥取 1、鹿児島 1)

(13) 公営住宅等関係

- ・ 広島県内 3 団地 51 戸で床上浸水 (うち入居中 19 戸)。

(14) 海岸、物流関係の状況

- ・ 被害情報なし

4 国土交通省の対応状況

(1) 災害対策本部会議等

- ・ 国土交通省特定災害対策本部会議 7/3
- ・ 国土交通省特定災害対策本部会議 7/4
- ・ 国土交通省非常災害対策本部会議 7/5
- ・ 国土交通省非常災害対策本部会議 7/9
- ・ 国土交通省災害対策連絡調整会議 7/9

(2) ホットライン構築状況

- ・ 東北：2自治体（秋田県2）
- ・ 関東：33自治体（神奈川県9、千葉県24）
- ・ 中部：27自治体（静岡県24、愛知県3）
- ・ 中国：34自治体（鳥取県10、島根県7、岡山県5、広島県10、山口県2）
- ・ 九州：20自治体（熊本県12、宮崎県3、鹿児島県5）

(3) TEC-FORCE 等（7/12 15:30）

TEC-FORCE 全体で47人（のべ576人・日）を派遣。

<熱海市土石流災害への派遣>

本日、37人を派遣

○リエゾン 10人（熱海市7、静岡県3）

※熱海土木で活動する総括班を含む

○JETT 2人（熱海市）

○ドローン班、砂防班等 25人

（ドローン班7、被災状況調査班（砂防8、道路6）、応急対策班等4）

○災害対策用機械等

12台を熱海市土石流現場へ派遣

（照明車6、排水ポンプ車1、衛星通信車等4、待機支援車1）

<その他地域への派遣>

本日、リエゾン10人を派遣。

（鳥取県2、島根県1、広島県1、鳥取県米子市1・南部町1、島根県松江市1・出雲市1・雲南市1・飯南町1）

○災害対策用ヘリコプター等による被災状況調査

・ あおぞら号（関東）：静岡県内を調査予定

(4) 海上保安庁（7/12 14:00 時点）

・ 投入勢力等

巡視船艇 8隻

- 航空機 5機
- ・ 人員
 - 特殊救難隊 7名
 - 潜水士 8名
- ・ リエゾン 4名
- ・ 対応状況等
 - 熱海港（伊豆山地区）土石流箇所周辺捜索（3日～）
 - 小田原市森戸川河口周辺捜索（3日～4日手掛かりなし）
 - 島根県益田市高津川被害状況調査（8日実施済み）
 - 江の川沿岸部調査（8日実施済み）
 - 鳥取市沿岸部調査（8、9日実施済み）
 - 熊本県熊本市～鹿児島県日置市沿岸部調査（7月10、11日実施済み）
 - 川内川調査（7月10日実施済み）
- ・ 航行警報4件（継続4件）
- ・ 海の安全情報10件（継続10件）

(5) 国土地理院

- ・ 測量用航空機による緊急撮影を実施し、垂直写真、正射画像、斜め写真を関係機関に提供するとともに HP で公開（熱海伊豆山地区）（斜め写真：7/5、垂直写真、正射画像：7/6）
- ・ 崩壊地等分布図及び土砂堆積範囲図（第3報）を作成し、関係機関に提供（7/6）
- ・ GSI-LB(UAVによる調査チーム)による熱海市土石流現場の撮影を実施し、HPで動画を公開するとともに、UAVレーザによる計測結果から三時期の標高値変化量を抽出し、HPで公開（7/6）
- ・ 被災状況把握に備えるため、測量用航空機を北九州空港に進出（7/10）
- ・ 国土地理院災害対策本部会議 7/3 19:00、7/4 14:00、7/5 13:00、7/7 16:00

(6) 気象庁

- ・ 気象庁災害対策本部会議 7/4 8:00、7/5 14:30、7/9 17:00、7/10 9:00
- ・ 気象庁記者会見 7/10 6:30
- ・ 水管理・国土保全局、気象庁 合同記者会見 7/10 11:00

(7) 国土技術政策総合研究所

- ・ 専門家を熱海市伊豆山に派遣（7/3 土砂災害分野2名）
- ・ 国土技術政策総合研究所災害対策本部会議 7/5 15:00、7/9 15:00
- ・ 専門家を沼津市清水町黄瀬川大橋（沼津高架橋）に派遣（7/6 道路分野）

2名)

- ・ 専門家を国道19号犬戻りトンネル坑口付近における土砂流出現場に派遣 (7/7 道路分野2名)

(8) 土木研究所

- ・ 専門家を沼津市清水町黄瀬川大橋（沼津高架橋）に派遣 (7/6 橋梁分野2名)
- ・ 専門家を国道19号犬戻りトンネル坑口付近における土砂流出現場に派遣 (7/7 道路分野4名、土砂災害分野2名)
- ・ 国立研究開発法人土木研究所災害対策本部会議 7/12 10:30

2. 令和3年度予算について

水管理・国土保全局関係予算の推移

個別補助事業化に伴う増分226億円を含む

5か年加速化対策
初年度分(R2補正)

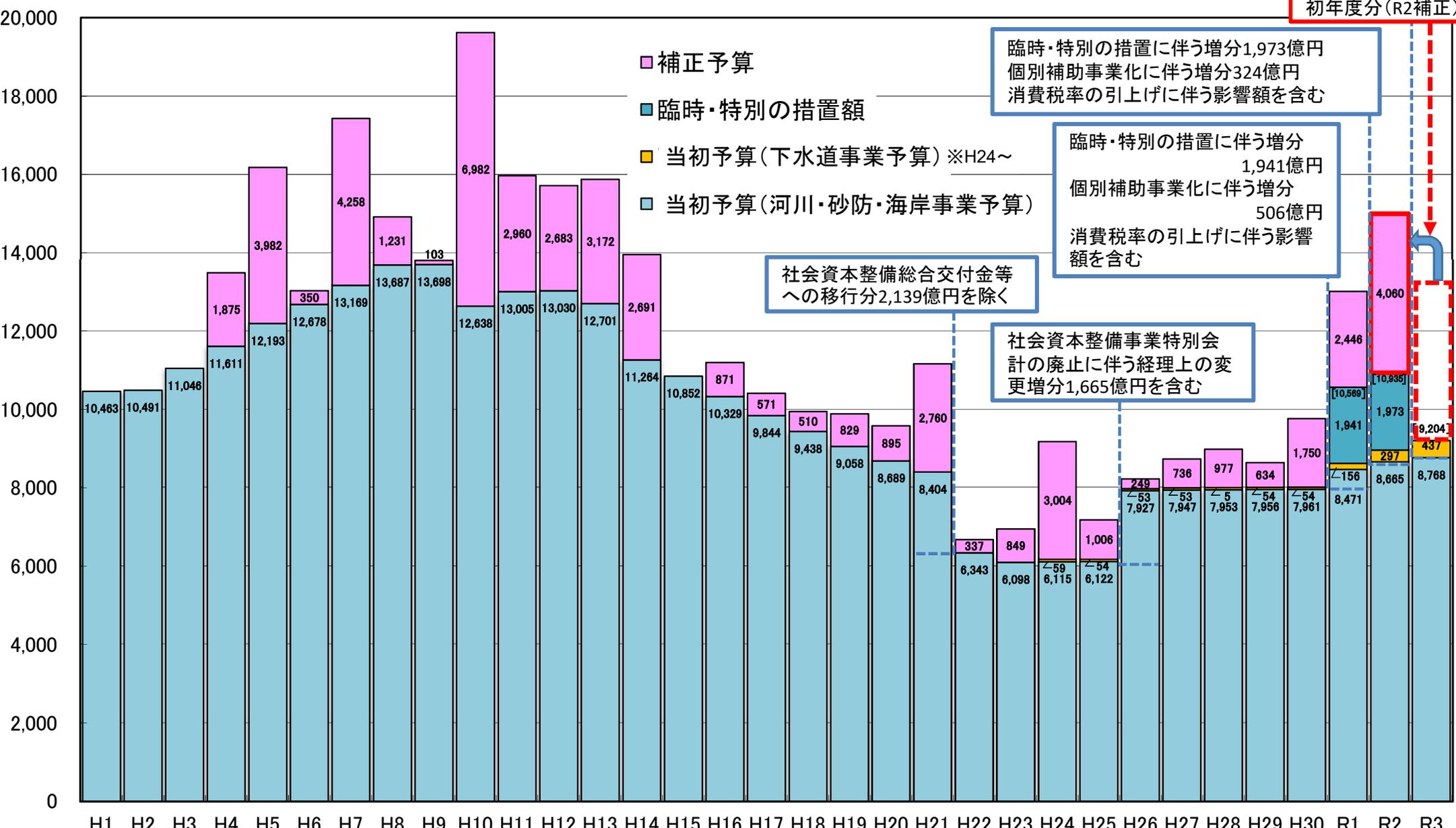
臨時・特別の措置に伴う増分1,973億円
個別補助事業化に伴う増分324億円
消費税率の引上げに伴う影響額を含む

臨時・特別の措置に伴う増分
1,941億円
個別補助事業化に伴う増分
506億円
消費税率の引上げに伴う影響
額を含む

社会資本整備総合交付金等
への移行分2,139億円を除く

社会資本整備事業特別会
計の廃止に伴う経理上の変
更増分1,665億円を含む

(億円)



※災害復旧関係費、行政経費は除く。(下水道事業関係費についてはH24から)

※H22以降については、他に社会資本整備総合交付金等がある。

※[]は下水道事業予算、臨時・特別の措置を含めた水管理国土保全局関係の当初予算の計

H23.7 水管理・国土保全局に改組
→ 下水道事業予算を含む

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策 概要

1. 基本的な考え方

- 近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、南海トラフ地震等の大規模地震は切迫している。また、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化するが、適切な対応をしなければ負担の増大のみならず、社会経済システムが機能不全に陥るおそれがある。
- このような危機に打ち勝ち、国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持するため、防災・減災、国土強靱化の取組の加速化・深化を図る必要がある。また、国土強靱化の施策を効率的に進めるためにはデジタル技術の活用等が不可欠である。
- このため、「激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策」「予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速」「国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進」の各分野について、更なる加速化・深化を図ることとし、令和7年度までの5か年に追加的に必要となる事業規模等を定め、重点的・集中的に対策を講ずる。

2. 重点的に取り組む対策・事業規模

○対策数：**123対策**

○追加的に必要となる事業規模：**おおむね15兆円程度を目途**

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策[78対策]	おおむね12.3兆円程度
(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策[50対策]	
(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策[28対策]	
2 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策[21対策]	おおむね2.7兆円程度
3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進[24対策]	おおむね0.2兆円程度
(1) 国土強靱化に関する施策のデジタル化[12対策]	
(2) 災害関連情報の予測、収集・集積・伝達の高度化[12対策]	
合 計	おおむね15兆円程度

3. 対策の期間

○事業規模等を定め集中的に対策を実施する期間：令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）の**5年間**